



ICT学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立青森第一養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input checked="" type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	運動エネルギーの大きさ		
	単元(題材)の目標	運動エネルギーの大きさは何に関係しているか調べるための実験を行い、結果をまとめて関係性を見いだす。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学	部	3 年 2 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<p>中学校に準ずる教科を学習している。理科の実験や観察に意欲的であり、疑問点をさらに探究しようとする態度も見られる。2名とも身体にまひがあり、車いすで活動している。手指を使った細かな作業が苦手で、紙面の教科書をめくことや書字に困難がある。理科の授業ではデジタル教科書を使用し、実験レポートの結果やまとめは指導者が代筆していた。1名は視覚に障がいがあり、小さな文字が見えにくいことがある。</p>		
	使用した支援機器・教材の名称	生徒：iPad 指導者：パソコン、プロジェクター、AppleTV		
ICT活用について	使用したアプリケーションの名称	ドライブ、Google スプレッドシート		 
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 ( <input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援 ) <input type="checkbox"/> 活動支援 ( <input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 ( <input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援 ) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	ICT活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を使用することで、生徒自身がレポートを作成することができる。</li> <li>・ドライブでレポートを共有することで、記録係以外の生徒や指導者も結果をリアルタイムで確認しながら進めることができる。</li> </ul>		
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入力のしやすさを考え、スプレッドシートでレポートを作成した。共有ドライブにデータを保存し、実験する生徒が出した結果を記録係の生徒が入力するようにして実験を行った。指導者の支援が少なくなったことで、自分たちで実験をしているという意識が高まったように感じた。数値の関係性から次の結果を予想し合ったり、結果を見ながら2人で話し合い、まとめを入力したりしている様子が見られた。</li> <li>・ドライブで共有することで、生徒の目の前のiPadにリアルタイムで結果が表示されるため、各自で見やすいように拡大したり移動させたりしながら実験を進めていた。終了後はそのまま自動保存となるため、次時以降の振り返り学習でも活用した。</li> <li>・指導者のパソコンでもレポートの内容を確認することができ、iPad画面が見えない場所からでも必要に応じてアドバイスをしながら進めた。同時編集が可能のため、途中のアドバイスやまとめに対する評価はその場で入力し、生徒に示すことができた。</li> </ul>			

